

# 日本文化と「クールジャパン」の原点と真実

筑波大学名誉教授 三井 秀 樹

略 歴  
 1966年 東京教育大学教育学部芸術学科卒  
 1967年 同芸術学専攻科修了  
 2006年 筑波大学大学院人間総合科学科  
 芸術専攻教授 (筑波大学名誉教授)  
 2012年 玉川大学名誉教授  
 現在、学校法人 東京造形芸術学園理事、  
 公益財団法人 日本手芸普及協会理事

## 1. 「クールジャパン」という潮流

「クールジャパン」という流行り言葉がメディアに登場してから、早や20年近くとなります。

この「クール (cool)」とは、本来の冷たいという意味ではなく、粋でカッコよいという日本文化のいわば粋心を表し、人の心を惹きつける魅力を表現したキーワードともいえます。この火付け役となったのは米国のジャーナリスト、D.マッグレイが日本のアニメ、マンガやフィギュアなどのPOPカルチャーを評した造語でした。

2000年当時、日本の現代文化は、こうしたポップカルチャーばかりか、車やカメラなど工業製品に加え、2013年には和食がユネスコの無形文化遺産に登録され、世界中から注目を浴びていました。

併せて日本人のおもてなしの心が見直され、来日する観光客も昨年の2016年には、2,400万人にも増加したのです。

つまり、日本人が本来もっている有形・無形の文化遺産が、海外から熱い視線を向けられた日本文化ブームの再来だったのです。

## 2. ジャポニズムの原点

振り返ってみると、こうした日本文化が西欧に与えた影響は、19世紀中頃、日本から輸出された伊万里焼の陶磁器や漆工芸品や着物、帯などの絹織物とともに、浮世絵などの日本人の職人が作りだした手づくりの品々が西洋文化に衝撃を与えた社会現象です。

ジャポニズムは、殊に当時の印象派絵画に大きな影響を与えたことで知られるようになりました。印象派の画家たちの作品どれを見ても、日本文化の影響が見られない作家は全く無いといってよい程でした。

さらに第二次大戦後、焼土から驚異的な復興を成し遂げた日本経済ですが、日本の多くの工業製品が欧米との経済摩擦を生んだのは、つい最近のことのようです。そして世界第二の経済大国となり、再び日本文化が見直されるようになりました。

これが第2のジャポニズム (ネオジャポニズム) とも呼べる日本ブームではなかったでしょうか。このように考察すると現在のクールジャパンは、まさしく第3のジャポニズムとも言えるでしょう。

ところで日本人が作りだした文化がなぜ今、世界中の人々の関心をそれほど呼ぶのでしょうか。ここでジャポニズムが起きた要因を探ってみましょう。

## 3. 産業革命とジャポニズムの美学

18世紀後半、英国で産業革命が勃発後、工業化社会を迎え西欧社会が世界中を席捲した19世紀になるまで、文化の中心を担うのは王侯・貴族や、一握りの裕福な商人たちでした。当然ながら当時の文化の中心は、キリスト教社会の支配階級が握っていたのです。

これに対し、ジャポニズムの原点となる日本文化は、町民や商人たちが中心の大衆が作りだした、いわば下層階級の庶民文化が中核を占めていました。欧米の知識人やアーティストたちが競って買い求めた浮世絵は、実は江戸庶民の娯楽の対象であった美人画や歌舞伎役者絵のプロマイドや風景画など絵はがきの類にすぎません。

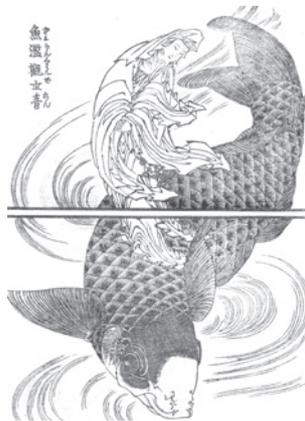
そこで注目すべき点は、西洋人、殊に印象派の画家たちが一斉に驚いたのは、浮世絵には西洋には全く見られなかった日本独自の美学が存在していたことです。

まず、遠近法がなく輪郭線による平面的な描写の日本独自の描写表現には、西洋画の写実描写を補うさまざまな工夫がありました。そのひとつは、非対称の美学です。西洋ではほとんどシンメトリー（対称形）の配置、あるいはギリシャ時代以来の美学、黄金比による分割や配置の表現が大半を占めていました。

日本では極端な非対称の配置や比例法が好んで使用され、画面に新鮮な感覚をつくりだしていたのです。これに対し西洋画のモチーフは、中央あるいは中央よりやや寄った黄金比の位置に置くのが常道となっていました。



←  
ジュール・ヴィエイヤー工房  
作「日本風食器セット」の一  
部 1880年



■「魚濫観世音」  
(北斎漫画 十三篇)

→  
「日本風食器セット」の中央  
のモチーフは北斎漫画の映し  
「魚濫観世音」(下図)よりそ  
っくりそのまま映している。

日本絵画では、モチーフとなる遊女の顔が画面にたち切られる程、隅に片寄った極端な非対称の表現もよく見られます。こうすることによって画面に緊張感が生まれ、訴求性が高まるのです。こうした手法は、たちまち印象派の画家たちに影響を与え、ルノアールやドガ、ゴッコンなどが同じような構図を模すようになりました。

#### 4. ポスターとジャポニスム

この日本人独自の非対称の美学が印象派の表現法を一変させ、現代絵画の基盤を築いてきた、と言っても過言ではないのです。

またポスターの作家としても名を馳せたロートレックは、浮世絵の平面的な描写と非対称の構図を生かし、ポスターで新しいメディアの基礎をつくりあげ、20世紀グラフィックデザインを築いた幕開けのひとりとなりました。

つまりジャポニスムは、印象派絵画からポスター表現、さらにアールヌーヴォーというガラス工芸や家具の新しい流れの源となったのです。

この日本人の美学は、20世紀初頭、アールデコの流れに引き継がれ現代デザインの根幹となる理念づくりに貢献したのです。

その後、アールデコのデザインの潮流は、ロシア構成主義やゼセッション（分離派）を生み、モンドリアンの新造形主義を経てドイツのバウハウスという造形学校のデザイン教育に集約され、アメリカの現代デザイン理論の構築につながっていきました。

#### 5. 21世紀のジャポニスム

総括しますと、日本人の生み出した伝統的な美に対する意識が、デザイン理論として再構築され、現代デザインやデザイン教育に蘇ったのです。

クールジャパンという現代ジャポニスムの社会現象は、アニメやマンガのブームや流行という狭い範囲でなく、本来日本人が抱えている生活の幅広い美意識や美に対する姿勢が今日、ようやく世界から認知されはじめたに過ぎません。

日本人の美意識は今や、グローバルな美の基準となったということかも知れません。21世紀、その次の時代にもジャポニスム、つまりカッコいいクールジャパンの日本文化の潮流は、当分の間、廃れることはないでしょう。



■エミール・ガレ「鯉魚紋花瓶」パリ装飾美術館 1878年  
モチーフの鯉の像は、北斎の「魚濫観世音」

■この「つくばのシニア人材紹介コーナー」は、つくば市が2008年度から推進している「つくば市OB人材活動支援事業」に登録されている研究者・教育者の方々より寄稿を受けて作成しています。現役を一旦引退されてもいつまでも社会発展の牽引力となって活躍をされている方々の研究実績や業務経験の一端をご紹介させていただくものです。